

28年1月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年 1月1日～ 28年1月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は12社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/1月	2月	3月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 9.1	△ 22.7	△ 31.8
	マツ	△ 31.8	△ 31.8	△ 40.9
	広葉樹	△ 20.8	△ 33.3	△ 29.2
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 16.7	△ 25.0	△ 25.0
	マツ	△ 27.3	△ 25.0	△ 30.0
	広葉樹	△ 30.0	△ 30.0	△ 30.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 9.1	△ 22.7	△ 36.4
	マツ	△ 29.2	△ 29.2	△ 33.3
	広葉樹	△ 31.8	△ 36.4	△ 45.5

・チップ用国産原木の入荷、消費及び在庫は、3ヵ月連続して減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/1月	2月	3月
スギ・ヒノキ	13.6	9.1	9.1
マツ類	9.1	9.1	9.1
広葉樹	12.5	8.3	8.3

・チップ用国産原木の購入価格は、全品目でやや強含みで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・針葉樹はシステム販売の入荷増が見込まれる。広葉樹は、針葉樹の伐採終了とともに多少増加すると思う。スギ在庫はやや増加（東北）。

・降雪期に入り、1月～3月は原木の入荷減少、4月頃より入荷も徐々に多くなる（中部）。

・間伐材の仕入れは、森林組合の伐出に合わせ山土場からの回収により材を確保している。短材を含め材積を上げようとしているが、1現場からのパルプ材は100トン程度にとどまっている。製紙、バイオマス発電とも需要は大であるが、チップ業への原木の周りが少ない。製紙、バイオマス発電共に越冬用の原木在庫をかなり確保している。チップ製造業者の在庫は少ない状況で推移している（中部）。

・仕入れ、消費、在庫は、大きな変動ない（中国）。

・当月入荷量横ばい、翌月、翌々月積雪の関係にてやや減少が考えられる。バイオマス、製紙、ボードメーカーとも原料が必要で消費は良いが、原木入荷減にてやや消費は減少。原木在庫はやや減少、翌々月は積雪の影響にて減少が考えられる（四国）。

・針葉樹、広葉樹共に通常並みの入荷、来月は針葉樹は山からA,B材優先の搬出と思われ、仕入れは少し減少かも。全樹種とも製紙用フル生産に近いと、消費は順調。昨夏機械改修中の在庫が生産順調で適正水準になりつつある（九州）。

・仕入れは低調に推移、仕入状況に応じた生産（九州）。

(原木価格)

・全樹種とも不足により上昇気味、スギ5,000円/m³、マツ6,000円/m³、広葉樹8,500円/m³（東北）。

・県内西地区はバイオマス発電の購入単価6,500円が定着。県内東地区は製紙がバイオマス発電を若干上回る単価で購入（中部）。

・変動なし（中国）

・針葉樹は昨年かなり上昇ためしばらくは変化なし、広葉樹は品質が良く、まとまった量のある場合につき少し上がっている（九州）。

・スギは現状維持。広葉樹は大径木の混入具合・距離等によって価格を見直し、単価を下げた（九州）。

28年1月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/1月	2月	3月
生産 動向	スギ・ヒノキ	△ 20.0	△ 25.0	△ 30.0
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 30.0
	広葉樹	△ 36.4	△ 31.8	△ 36.4
出荷 動向	スギ・ヒノキ	△ 20.0	△ 25.0	△ 30.0
	マツ類	△ 22.7	△ 22.7	△ 27.3
	広葉樹	△ 25.0	△ 25.0	△ 20.8
在庫 動向	スギ・ヒノキ	△ 16.7	△ 22.2	△ 33.3
	マツ類	△ 33.3	△ 33.3	△ 44.4
	広葉樹	△ 50.0	△ 44.4	△ 50.0

・木材チップの生産、出荷及び在庫は3ヵ月連続して減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	28/1月	2月	3月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・入荷材の減少により減産気味（東北）。
- ・原木入荷減少で40%の減産、4月頃からは、原木入荷で徐々に出荷は多くなる予定（中部）。
- ・製紙用チップの引合は大きいですが、原木の入荷が伴わず、要望に合った出荷が出来ない状況（中部）。
- ・製紙用、ボード類、燃料用需要あり、生産調整もないが、原料入荷不足にて生産は減少が考えられる。原料入荷不足にて出荷も減少。燃料用在庫やや減少、製紙、ボード用減少（四国）。
- ・変動なし（中国）。
- ・製紙用、発電用と合わせてフル生産、出荷に近い、在庫はしていない（九州）。
- ・製紙用広葉樹は原木の入荷に応じた生産、計画数量に伴う出荷（九州）。

(木材チップ価格)

- ・変動なし（中国）。
- ・現状維持（九州）。